

(様式2)

バルク乳検査で摘発した牛ウイルス性下痢症持続
感染牛（PI牛）発生農場対策

：伊那家保 平野皓己

1 2020年6月、PI牛の摘発を目的としたバルク乳全戸
2 検査でA農場の陽性を確認。ヨーネ病検査余剰血清（4
3 月採血）等を用いて、全頭BVDV抗原ELISA検査（以下、
4 ELISA）を実施、1頭陽性を確認。3週間後の検査によ
5 り、PI牛と確定し淘汰。本牛は2019年12月に北海道
6 より導入。対策の1つとして、本牛と同居した妊娠牛
7 産子についてELISAを実施中。2020年12月までに5
8 頭PI牛を摘発淘汰（46頭中）。検体は耳片採取器（Zee
9 Tag：Ztag社製）を用いて採材。耳片採取器は農家で
10 も簡便に取り扱え、検体は冷蔵・冷凍保存が可能。本
11 例では週に1度程度、A農場に出向いて検体を回収。
12 出生毎の採血と比較し、保定等の農家負担や家畜保健
13 衛生所の人的負担が軽減。また、摘発されたPI牛の遺
14 伝子型は全て2型であったが、中和試験により1型の
15 抗体価上昇も確認。A農場では本例以外にもBVDVの侵
16 入を示唆。導入牛のBVD検査、定期的なワクチン接種、
17 バルク乳検査等の重要性を認識。